

論点	具体的な検討内容	検討期間 (28年度末のイメージ)
1. 新たなサービスの展開 (1). モバイルサービスの検討 (衛星携帯端末・一般網接続)	・技術的検討《主に技術検討部会で検討》	サービス提供の是非について結論を得る
(2). LGWANとの連携① (市町村のBU回線としての活用)	Lasdec・J-LISが実施した検討をベースに、技術面・経済面・制度面から検証《主に技術検討部会で検討》 (国・J-LISとの連携が必須)	27年度中に活用の是非について結論を得る(Lascomとしての意向の確認)
2. 既存のサービスの見直し (1). オールIP化推進 (VSATの小型化・低価格化、第一世代)	①末松研究の実用化に向けた技術的検討、②普及に向けた検討、③第一世代の「巻き取り」 《主に技術検討部会で検討》	①・②: 実現の見通しを明確にし、対外的に発信 ③: 27年度中に方向性を提示
(2). 普段づかいの検討	過去の検証とともに、「普段づかい」に適した業務をリストアップし、現行サービス提供下での対応方法について検討。	「利活用ガイドライン」の策定を念頭に、継続的に検討を実施
(3). LGWANとの連携② (「行政専用連絡網」の展開検討)	「個別通信サービス」の住民窓口業務での活用検討。技術面・費用面・新規導入した場合との比較・利用見込み等)(国・J-LISとの連携が必須)	27年度中に活用の是非についての方向性を提示
(4). 整備・運用に対する支援のあり方 (財政支援のあり方、市町村局の整備・運用のあり方)	①28年度施策・予算・地財に反映すべき事項を検討し、7月以降要望活動を実施。 ②近年、廃局が進む市町村局について検討(設置(存続)の意義、支援のあり方等)。	①<28年度要望分>第4回有識者会議で決定(毎年度検討) ②国における位置付けの明確化とともに、方向性を示す
3. ユーザーとの「接点」の確保 (LascomネットのPR)	現状及びニーズの把握、接点の確保に向けた具体策の検討	継続的に検討を実施し、一定の方向性を示す